明星院だより

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6－25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

暑中お見舞い申しあげます

令和四年　炎暑

ウクライナの国民と共に戦争に反対し、世界平和と犠牲者慰霊の為に折られた鐘楼堂の千羽鶴

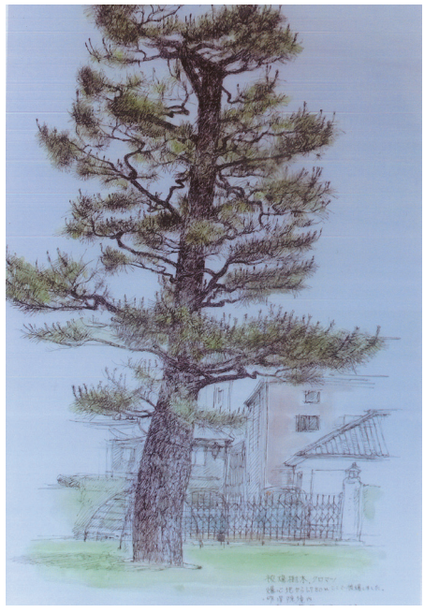
平和を祈り続けよう

ロシア軍によるウクライナへの侵攻が去る二月二十四日に開始されました。国際社会の願いも叶わず、問題を解決する手段として武力を用いた暴力を行使し、ヨーロッパにおいて戦争が始まりましたことは、誠に残念でなりません。多くの民間人が犠牲となり、更に多数の国民が避難を余儀なくされています。私達人類は、過去の悲惨な経験を通じて「戦争は問題の解決にならず。悲しみ、苦しみ、怒り、憎しみを生み、誰ひとりとして幸せにしない」ことを学んできたにもかかわらず、世界を巻き込む戦争が起きたことに、深い悲しみと憂慮の念に胸が締め付けられる思いです。

音楽に罪はない！

嘗て、学生時代に習ったロシアの楽曲は数多くあります。「ともしび」「トロイカ」「カチューシャ」「一週間」は今でも歌詞が直ぐに思い出せるし、フォークダンスの「カラベーニキ（行商人）」や「百万本のバラ」映画音楽の「ひまわり」「ドクトル・ジバゴ」の哀調を帯びたメロディーは、しっかりと耳に残っています。軍拡による恐怖が支配する世界ではなく、一日も早く戦争が終わり、ウクライナの人々が平和な日常生活を取り戻せるよう思いをはせ、違いを認めて信頼で繋がり合う世界が実現されるよう心より祈念いたしましょう。そして、いつの日か皆で手を取り合って口遊む日が来ることを願って・・・。

久保田辰男画伯が、当山被爆樹木を描写さる



クロマツ

イチョウ

ソテツ

昭和十五年東広島市福富下竹仁で誕生された久保田画伯は、広島大学教育学部美術科を卒業後、一水会を中心に「家族」「ふるさと」「母」「牛」をテーマとして画歴を積み重ねられ、特に傘寿を過ぎられた今日、世界平和を願いつつ、広島市内の被爆樹木を数多く描き続けられておられます。

編集後記

☆誰が言い始めた訳でもなく、折鶴で梵鐘を飾り「平和の鐘」として鐘を撞き、ウクライナでの戦闘終結を願って平和の祈りを捧げることとなりました。
ロシアの皆さんには冷静を保って頂き、ウクライナの皆さんには安心して暮らせるように、梵鐘の音色に乗って祈りの心が届き、一日も早く平静な状態に戻ることを願います。

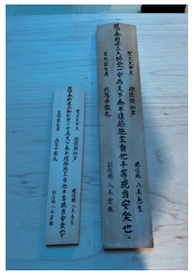
〝あの鐘を鳴らすのはあなた〟

☆八月七日は立秋ですが、名ばかりの連日の猛暑・酷暑・炎暑・大暑で、今年も十月頃まで長い残暑が続きそうです。熱中症に十分気をつけながらコロナ対策等、日々ご油断なきようにお過ごしください。

大師堂・御影堂、地鎮祭・上棟式を執行

― 聖業の成満を願って ―

大師堂・御影堂工事の無魔成満を願って、一月二十一日地鎮祭・六月二十一日上棟式が厳かに営まれました。副住職による読経後、山主が祈願文を奏上し、沖廣監督、下村棟梁、工事関係者一同と共に工事の完成を祈念いたしました。



明星院大師堂・御影堂上棟式 祈願文

謹み敬て真言教主大日如来、本尊界会諸尊諸衆、殊には高祖弘法大師遍照金剛、当山鎮守稲荷大明神、別しては堅牢地天部類眷属の諸神に白して言さく。

当山大師堂は、昭和二十年被爆焼失以来七十七年、歴代住職、再興を念願すること切なり。然りと雖も機運熟することなく、大師尊像は昭和四十九年からは本堂内に、平成六年護摩堂再建後は護摩堂内に安置し今日に及べり。

然るに、来令和五年は弘法大師御誕生壱千二百五十年の大吉祥年に当たり、檀信徒との結縁を鞏固ならしめ、之が実動の機を調えせしめ、その記念事業として報恩行報答の機を得たり。

依って本年一月その実動に入り㈱オキヒロと契約、㈱ジーナ一級建築士事務所に設計を依頼し、同月二十一日地鎮祭を執行す。爾来、下村健治棟梁のもと大工下村桂、中村辰彦、前田真各位、現代建築技術の粋を集めて日夜工を進め、漸く月光山境内にその輪郭を形成し規模の測定するを見る。もとより蓮華王閣本尊千手観世音菩薩・無量寿殿本尊阿弥陀無量寿如来・阿遮羅殿本尊大聖不動明王並びに高祖弘法大師の加護、併びに檀信徒総力協心の贈物にして深く謝す処なり。乃ち今日の吉辰をトし上棟式の厳儀を誉ぐ。

これ当明星院の令和の大事業にして法悦これより大なるはなし。仍て茲に一座の法会を修し法楽を献じて工事の無魔竣工を祈念し、信仰為本の大道場の弥栄を懇念し奉る。

願わくば諸天善神発願浄財の功徳主善男善女に祝福をめぐらし、併せて㈱オキヒロ㈲下村建設百般の工匠をして無魔落成の歓びを領せしめ、更には弟子等が微衷を哀愍、素願を成就せしめ給わんことを

千時令和四年六月廿一日

月光山大日宮寺明星院第廿八世住職

傳燈大阿闍梨　八木恵生　敬白

桧田　幸子
福永　ノブ子
福本　泰洋
藤田　美代子
藤原　芳万
保澤　祥子
堀内　唯良
堀田　サワノ
松島　喜久子
松田　一登
松村　政行
松本　洋介
真鍋　幸一
三浦　絹枝
水谷　伸治
溝口　富子
三村　和穂
三村　幸枝
宮本　厚子
三好　孝
村上　勉
村上　千恵子
村本　仁
安原　晴樹
安原　柾盛
山内　真治
山﨑　多美子
山本　和子

吉川　津芳
吉本　秀樹
渡邉　悦志

九万円

中村　博子

六万円

奥谷　順子
樹野　淳也

五万円

秋田　久実枝
金原　政敏
志　土　会
武枝　貞之
中村　洋一

三万円

青山　和之
内田　暎三
江山　福寿
岡本　真一郎
景山　美都江
梶川　宏
金重　緑
金原　アサヨ
國廣　佳代子
熊谷　直人
河野　憲治
河野　英雄・いづみ
小早川　瀧子

小林　敬範
齊藤　真
佐伯　法子
澤田　俊英
柴田　吉男
妹尾　貴博
十川　日出男
髙橋　千城
田辺　晋一
中山　忠
野上　和彦
橋本　清孝
羽田　誠一
原田　敏雄
藤岡　清
前田　美恵子
松井　一雄
山岡　邦子
安島　静夫
吉村　健二

二万円

三木　和子

一万円

有江　元子
大町　美智子
中西　ジーン・ペター
納家　猛
林　美保子

記念事業工程表

令和三年		
十月	事前通知	
	志納金勧進のお願い	
十二月	建築確認申請	
	㈱オキヒロと工事請負契約	
令和四年		
一月	資材の買い付け	
二月	廿一日	地鎮祭
	五日	木材加工
	⇐	(五月二十日)
七日	基礎工事	
	⇐	(三月五日)
五月	十六日	木工事
	⇐	(九月三十日)
十八日	足場工事	
廿一日	レッカー作業	
	柱立て	
六月	十五日	金剛薩埵・弥勒菩薩像完成搬入
	廿一日	上棟式
	廿二日	屋根工事
	⇐	(八月十日)
	廿四日	高野山絵図・弘法大師御一代記表具完成搬入
		左官工事
		電気工事
十月		建具工事
		修行大師像安置
十二月		仏像・仏具・荘厳具搬入
令和五年		
		付帯工事

新築工事進捗状況

基礎工事
（２月７日～３月５日）

水子地蔵尊の
礼拝所を移設
（１月１０日～２月１５日）

御影堂の立柱
（５月１５日）

大師堂の立柱
（５月２１日）

大師堂の屋根の
骨組み工事
（６月１０日）

弘法大師御誕生千二百五十年記念

大師堂・御影堂新築事業　寄進者御芳名

（敬称略順不同）

百五十万円
長迫家一同

百万円
北川　妙
山瀬　光一

八十万円
大西　寛

五十万円
石原　一夫
松田　太郎

三十万円
今田　淑枝
海老澤　初美
大廻　ヨシ子
大塚　泰江
岡　博見
竹下　芳邦
田中　杏平
田村　聡一郎
中畠　宏能
橋本　英彰
堀口　敬治
三須　光

米川　晃

二十万円
浅井　泰雄
遠上　憲治
高坂　量道
巣守　志子
田中　陽子
土居　武
中村　將夫
西木　治之
桧田　明
藤井　良太
松浦　幹夫
吉田　茂
若林　彌生

十五万円
清水　登美子
中村　誠延
平田　暹
龍蔵院信者一同

十三万円
保見　孝好

十万円
青山　世治
秋田　康次
明智　智子
浅野　久子
諫早　良子
石井　淳二
石田　玲子
泉本　淳子
磯田　みどり
板野　紀子
伊東　佐代里
伊丹　徳勝
今村　英子
㈲今村石材
岩田　宏
岩本　秀男
岩本　政宏
上田　儀子
右近　千枝子
梅谷　佳弘
大廻　政人
岡　照志
岡田　徹也
岡田　百代
岡野　民子
岡野　久恵
尾﨑　直子
小田　尊之
柏原　拓司
加地　昭彦
菊川　誠久
北川　晴子
楠原　範江
倉本　勇治
桑野　克彦
洪　敏幸
小山　和子
小山　義紀
細工　辰夫
佐久間　良知
迫　政樹
笹岡　正
澤田　襄亨
志摩　晶子
下田　秀子
杉本　壽子
妹尾　方子
千田　敏夫
垰田　尚美
高山　スマ子
田辺　和美
田邉　智之
田辺　雄三
玉利　龍璽
田村　浩三
佃　文枝
出本　義夫
永井　康之
西尾　多鶴子
西岡　伸枝
二宮　石雄
仁平　真
延近　恵美子
橋本　健治
原　義昭
原田　高明
坂東　清高
久一　修
平野　公正